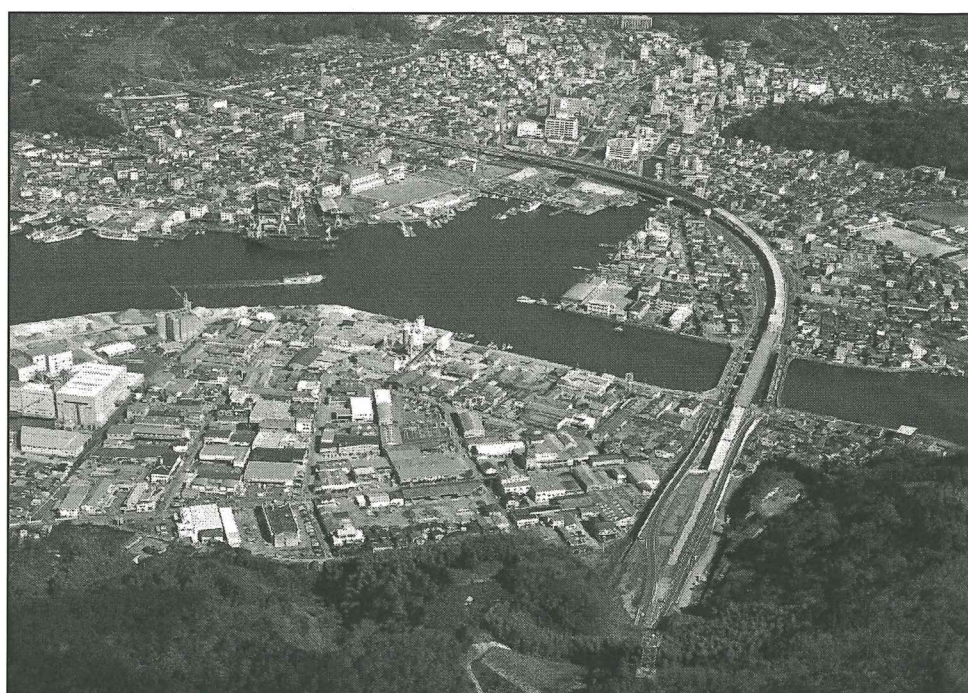


宇和島海洋先進都市構想

～ 3つの基盤施策による世界に誇れる宇和島海洋研究・産業先進都市の実現を目指して～

提案書



宇和島市港湾・市街地

目次

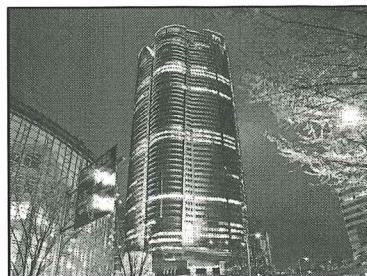
I 章	はじめに	1
II 章	宇和島の歴史	2
III 章	宇和島海洋先進都市構想	3
IV 章	構想実現のための基盤施策	4
V 章	むすび	7

平成19年11月

社団法人宇和島青年会議所
政策研究特別委員会

I 章 はじめに

地域活性化、地域福祉、地域主権、地域連合……。 「地域」という言葉を耳にし、目にする機会が増えました。また、「地方の時代」という言葉もよく聞きます。にもかかわらず、地域をめぐる現状は深刻化する一方です。少子高齢化による過疎化、雇用の悪化などを背景に、地域間格差は広がり続けています。「地方の時代」とは裏腹に、様々な地域が疲弊し、衰退しているのです。宇和島も例外ではなく、実際に生活する我々としても、この地域の衰退は目に見えて進行していると実感し、将来に対する不安を抱えているのが現状です。

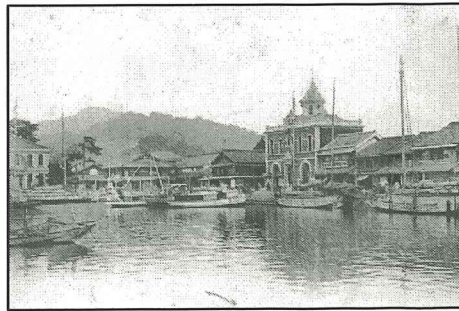
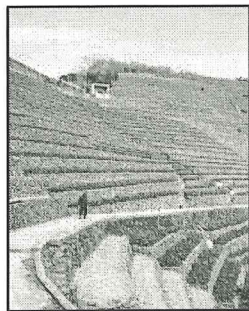


しかし、あらゆる地域がそうした現状に直面しているなか、**活性化に成功している地域もまた存在しています**。そうした地域では、住民と自治体が知恵を出し合い、実に個性的なまちづくりを実践しています。

こうしたなか、宇和島としても圏域は生き残りを賭け、**独自の特性・優位性を活かしたまち全体の方向性を模索**しなければならない状況にあると思われます。つまり、**まち全体が、このまちにしかない共通したコンセプトをもち、同じベクトルに向かって進み、また外部からもそう思われるまちにならなければならないと考えます**。では、実際に当地域はどうでしょうか。宇和島は、真珠、鯛、ハマチ等の養殖業を始め、海洋資源が豊富で、天然の良港に恵まれるなど、地理的・自然的な条件が優れ、歴史的にも他の地域と比べ実に「海」が日々の暮らしの中で、大きな役割を果たしていることに気がきます。こうしたことから、**宇和島は水産・海洋の実績に関するポテンシャルを活用することにより、「世界的な海洋先進都市」の形成を目指し、新産業の創出、地域経済の活性化を目指せる可能性を秘めている地域**であると考えられます。



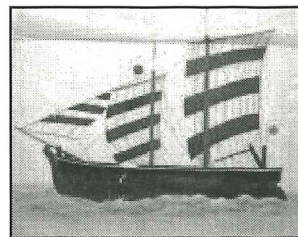
そこで、本構想は、まず宇和島の海との歴史を理解し、海洋先進都市の概容・方向性に触れ、その基盤・切り口として「教育・研究機関の改革」、「海洋政策の一元化」、「市民・企業の意識改革」を提案し、将来様々な具体的施策が実現するための基盤整備を目指したいと思います。そして、産学官民の連携を図り、われわれが考える10年、50年、100年後の宇和島圏域の生き残りを賭けた姿・未来像を提言してみたいと思います。



Ⅱ章 宇和島の歴史

宇和海と共に歩んだ町・・・宇和島

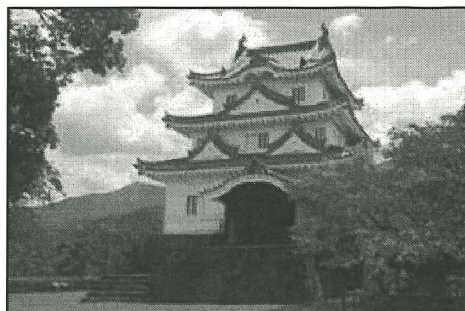
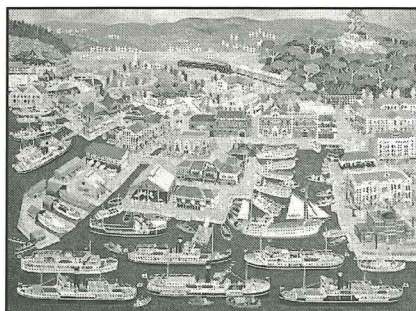
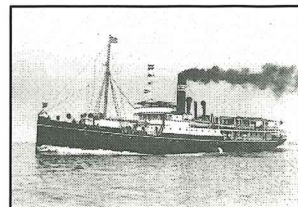
宇和海、主に豊後水道は内航航路の要所として知られ、これを制するものは瀬戸内海を支配するとまでいわれた時代がありました。古くは平安初期に起こったとされる藤原純友の乱に代表されるような争いもあり、西南部に位置する宇和島は温暖で豊かな自然に恵まれ**宇和海の恩恵を受けて発展してきた町**です。



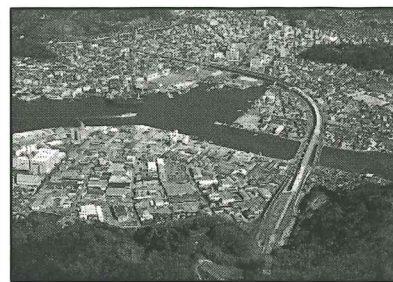
宇和海は江戸時代になると畿内、中国、四国、九州を結ぶ海上交易の路線として新たに脚光を浴びるところとなりました。参勤交代により物流拠点として次第に宇和島港は港湾整備を充実し、宇和島を代表する建築物である宇和島城が、当時は海に面しており、海から見た姿が最も威厳があり、美しく見えるように造られていることも有名です。幕末八代藩主宗城の時代には、軍事の近代化を推し進め、大村益次郎を招聘し軍艦建造の研究を行わせ、藩内より登用された前原巧山は、安政6年（1859年）国内2番目の蒸気船を完成させました。明治2年（1869年）には蒸気船「九曜丸」を建造し、大坂―宇和島間の航路を達成しました。



また、宇和海ではいわし漁が盛んで、海岸部に次々に新浦が開かれ、江戸中期には「いわし網」が163系統もあったと伝えられています。戦後から今日に至るまで、沿岸漁業も盛んに行われてきましたが、回遊魚の減少から「作る漁業」への転換が進みました。リアス式海岸の地理条件を活かし、鯛・ハマチなどの養殖漁業が始められ、現在の宇和島を支える基幹産業となっています。もう1つの基幹産業である真珠養殖業は、戦時中頃から始まったとされ、昭和29年に地元漁民による稚貝採苗が開始、昭和33年頃から、地元漁民経営による本格的真珠養殖業が軌道に乗り全国有数の産地となっています。加えて、宇和島由来の特産である皮てんぷら（じゃこ天）が「宇和島じゃこ天」として商標登録され、東京の街でも、「宇和島じゃこ天」としてメニューに載せられるほど、知名度を上げてきていることも特筆すべきことです。



Ⅲ章 宇和島海洋先進都市



1 構想の背景

I章で述べたように、地域間格差による地方切捨ての時代を宇和島が生き残るために、地域の特性を活かし、他にはない独自性をもち他から必要とされなければなりません。その為には、町の存在意義・政策の方向性を一元化、共有し、都市全体（産学官民）が連携し夢をもち同じ方向に進んでいくことが必要であると考えます。また、Ⅱ章から、宇和島は「海によって発展してきたまち」です。

そこで、本構想はまず以下の理念を掲げその概容・方向性を提示します。そして、Ⅳ章において、構想実現の為の基盤となる3つの施策を提案し、Ⅴ章でむすびとし総括していきたいと思います。

2 構想の基本理念

「海」を中心とした都市を形成し世界に誇れる「宇和島」の実現

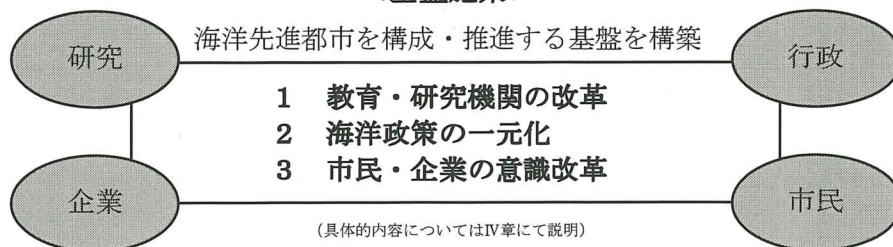
3 構想の概容・方向性

<基本方針>

海洋に関する世界有数の研究・産業（水産・貿易・観光・環境）都市。
産学官民の連携により対外的に海のまち「宇和島」（安全性、高品質、利便性、人間性、学術性）を定着させます。



<基盤施策>



<海洋先進都市ビジョン>

- 1 海洋・水産に関する学術研究の集積、地域との連携強化。
- 2 総合的な海洋政策を企画立案し、実行。
- 3 海洋・水産と市民生活・企業活動の調和、意識向上。

IV章 構想実現のための基盤施策



1 教育・研究機関の改革

① 目的

- ◆ 海洋・水産の学術研究拠点都市構築により、教育・研究機関と地域とが連携・相互活用し、技術集積、産業振興、人材育成を行います。

② 主要施策

◆ 「宇和島海洋学園都市」の形成

- ・ 大学等の教育機関、試験場等の研究機関などの誘致
- ・ 現教育・研究機関の改革と整備

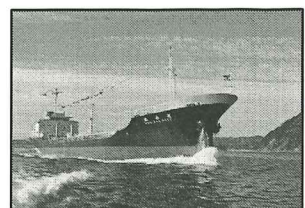
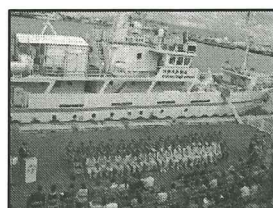
ex) 教育機関の改革

- ・ 海洋ビジネス科の新設（環境ビジネス・観光ビジネス・貿易ビジネス専攻等）
- ・ 海洋政策文化科の新設（心理学・海洋産業コンサルタント専攻等）
 - 海洋都市全体を構成する人材の育成
- ・ 大学推薦枠開拓（愛媛大学・東京海洋大学・近畿大学等）
 - 優秀な人材の獲得・輩出
- ・ 大学・水産試験場・各海洋都市研究機関との連携
- ・ 地域（企業・行政・市民）との連携



③ 予想される効果

- ◆ 海洋・水産に関する学術研究の集積、地域との連携強化。
 - ・ 新産業（貿易・観光・環境ビジネス）の創出。
 - ・ 新技術の開発、ニーズの発掘。
 - ・ 既存産業の合理化、品質向上による振興。
 - ・ 地域への優秀な人材の獲得・輩出。
 - ・ 関係者による人口増加、消費に伴う経済効果（学生、教員転入 コンベンションの開催）
 - ・ 地域社会活動の活性化ができます。
 - ・ 地域の学術、技術、教育水準の向上ができます。



2 海洋政策の一元化

① 目的

- ◆ 海に関する行政機構を一元化し、総合的な企画立案ができるようにします。



② 主要施策

◆ 「宇和島市海洋政策部」の創設

- ・ 産業経済部水産課・商工観光課、建設部建設課港湾係、環境部環境課など海に関係する各課を統合し、総合的に海洋行政を統轄する「海洋政策部」を創設。



海洋政策部	海洋企画課	宇和島市総合海洋計画の策定
		海洋環境負担金の徴収（注①）
		水産物の価格調査、統計
	海洋資源課	各研究機関との連携による水産物の研究開発
		漁業に関する事
	海洋経済課	観光に関する事
		水産加工品に関する事
		水産関係企業の誘致、雇用に関する事
	海洋整備課	港湾に関する事
		漁港に関する事
	海洋環境課	海の環境保全に関する事
		海上パトロール活動に関する事（注②）
		海洋環境負担金の運用（注①）

注①）「海洋環境負担金」制度を導入し、海の環境保全に関する市民意識を向上させる。その用途は海の環境保全・

- ・ 研究、起業支援環境の整備費とします。

注②）海上保安庁と連携を密にし過剰養殖やごみの不法投棄などを防止する為、海上パトロール活動を促進します。



③ 予想される効果

◆ 総合的な海洋政策を企画立案し、実行できます。

- ・ 港湾・漁港の区別なく、宇和海沿岸を総合的な視点で整備できます。
- ・ 海上輸送網・観光施設の総合整備による観光・交通（貿易・豪華客船等）政策促進。
- ・ 産学民との連携による海洋に関する計画・実行がスムーズになります。
- ・ 他の海洋都市（国内外）との姉妹都市提携・協力体制の構築。
- ・ 外部から移住してきた有力研究者・技能者（マイスター）に対する優遇税制。

3 市民・企業の意識改革

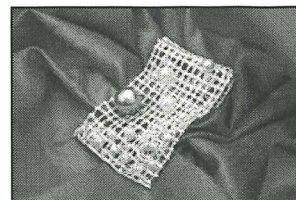
① 目的

- ◆ これまで基幹産業として、この圏域を支えてきた水産業の不振・低迷を正しく自覚・認識することで、市民・企業が一体となって、海洋環境の保全・整備を行います。そして、宇和島に対する誇りをもって対外的に個々がPRできるよう意識改革をします。



② 主要施策

- ◆ 環境に対する意識改革
 - ・ 海洋環境保全に向けた下水道設備・衛生設備の完備。
 - ・ 海洋環境負担金の導入。
 - ・ 学術研究機関・行政との連携による環境保全対策。
- ◆ 水産業に対する意識改革
 - ・ 地域特産品の地産地消や、認知向上を目的とした朝市・イベント・等の開催、公立学校給食への利用促進。
 - ・ 地域特産品のブランド化の推進。
- ◆ 対外PRに対する意識改革
 - ・ メディア活用による対外的PR活動の普及・促進。
 - ・ アンテナショップ等、情報発信基地の設置・活用。
 - ・ 海洋環境整備、水産業理解による個々のPR活動の促進。



③ 予想される効果

- ◆ 海洋・水産と市民生活・企業活動との調和
 - ・ **海洋環境美化活動による対外PRができます。**
(市民全員の「海の環境保全」に関する意識が向上し、宇和島が「海」を大切にしていることを対外にPRでき、ひいては宇和海産の水産物が安全・良質であるという信頼感をPRできます。)
 - ・ 環境保全・ブランド化等により、「強い商品」を創り出し、他との差別化を計ります。
 - ・ 市民一人一人が目的意識を持ち、共通利益を理解することができます。
 - ・ 地域をよく知ること、「誇れる地元」・「自慢できる商品」の意識向上ができます。
 - ・ 全国に広く認知されることによる交流人口の増加、対外経済活動が促進できます。
 - ・ 市民の**宇和島への誇り、地域愛**を育みます。

V章 むすび

われわれ宇和島青年会議所で今回このような構想を掲げた背景には、今までこの地域が受けてきた海からの恩恵に対して、宇和島で生きる者すべてが本当にそれを認識し、感謝しているかどうか不信に思ったことがきっかけでした。民間や官庁に携わる人々はもちろん、海から得た商品を生業としている人々ですら薄れてきているような気がします。本構想はその感覚を少しでも打破したいというアイデアの集約だと考えていただければ幸いです。

また、今回、第一次産業中心の南予地区にとって水産業の不振が経済に与える打撃がこんなに大きいことを初めて実感し、語弊があるかもしれませんが、各地区の真珠御殿に代表される20年前の栄華を追い求めるが故の自殺者や失踪者の増加にも大変心いたまれるところです。現在でも養殖魚の価格の伸び悩みや、まだ尾を引く養殖真珠貝の斃死問題、市内漁協の合併不成立など問題は山積しております。しかし、先に述べたように過去・現在においてもやはり宇和島の他に負けない特性は「海」なのです。そこでわれわれは何をおいても海に関心をもち、大切にし、そして前向きに伸ばしていくことが大前提であると意見が一致しました。今回の構想は早急な課題への対応解決を要するものと、時間をかけゆっくりと解決していく課題とが混在していると思いますが、是非ともまち全体で前向きに取り組めば全てが為し得ない課題ではないと考えています。

現在宇和島市では、養殖研究部門として専門官が雇用され、宇和島地域ブランド化構想による宇和島真珠を核としたタウン構想、虹色グリーンツーリズムなど、海洋に関する事柄でまちの再生を図られています。宇和島水産高等学校におかれましては、地域の婦人会との交流による、地元の養殖魚を使用した缶詰製作や、行政との交流を主眼とした活動をされておられます。また、民間レベルでも、じゃこ天の拡販などに代表される宇和島オリジナル商品、名産品の形成、また新しい高級養殖魚の開発や販路の確立など、各種方面で各々が生き残りを賭け、血の出るような思いで、毎日努力されておられます。

しかし残念ながら、現状の宇和島ではそれらを特化し、外部に対抗できる環境が十分であるとは言いがたい状況であると思われます。大同連携するところはまとめ協力し、それによってそれぞれが点で動いているものを線とし、またバラバラ観のある海洋政策を見直し、財政投入すべきところには投入するべきであるとわれわれは声高に訴えたいと思います。

この構想はそういった線をさらに円として、宇和島に関わるすべての力を同じベクトルに乗せることにより大きな力とした新たな相乗効果を期待するものです。そのためには、是非とも先に述べた3つの基盤施策を通して、まちの基盤整備を行い、「強く前向きな宇和島」を「産・学・官・民」が連携し、創っていくべきであると考えます。そして、われわれが最後に望むものは、将来にわたり延々と聞こえる宇和海で遊ぶ子供達の笑い声であり、そして「宇和島」を誇らしげにまわりの方に語れる「うわじま人」のプライドなのです。